

令和 7 年度

「運営に関する計画」

(様式 1)

中間報告

大阪市立大宮西小学校

令和 7 年 1 2 月

大阪市立大宮西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、1年生35名、2年生43（+2）名、3年生26（+1）名、4年生35名、5年生44名、6年生43名 計225名の中小規模の小学校である。クラス編成は2、5、6年が2クラス、他は1クラスの編成となっている。また、本務の教職員構成は26名（±3）であり、大阪市教育局から、学習面を支援するための加配を配置し、学校運営をおこなっている。

令和4年3月改定の市中期目標達成に向けた昨年度の目標は、「安心・安全な教育」では全般的にわずかながら未達成、「学力・体力」ではおおむね達成、「教育環境」では全体として上回って達成の状況だった。ただし、学年別、同一集団による経年変化等を分析すると改善をめざす必要がある。特に「教育環境」面では、一昨年度配置されて大幅な改善に寄与したワークライフバランス支援員、そしてスクールサポートスタッフ（SSS）も配置されておらず、厳しい状況であった。今年度はSSSの配置があり、学校事務作業環境面での一定の改善が見込まれる。中期目標達成のためには、もう一段ギアを上げて取り組むべき項目も多く、教職員が一層の共通認識に基づいた実践を進める必要がある。

■大阪市が定める3つの最重要目標と9つの基本的な方向

1 【安全・安心な教育の推進】

基本的な方向 ① 安全・安心な教育環境の実現

基本的な方向 ② 豊かな心の育成

2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 ④ 誰一人取り残さない学力の向上

基本的な方向 ⑤ 健やかな体の育成

3 【学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向 ⑥ 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進施策

基本的な方向 ⑦ 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

基本的な方向 ⑧ 生涯学習の支援

基本的な方向 ⑨ 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

■上記以外で本校が定める目標（学級経営、専科指導、特別支援教育、清掃活動、食育 など）

1 【安全・安心な教育の推進】

いじめ、不登校、虐待その他問題行動については、各種対策委員会等で即時情報共有をし、組織的な対応に努めている。また、近隣の小学校および中学校との連携も随時行っている。必要に応じて区役所子育て支援こども相談センターや警察、医療機関などの外部機関との連携した対応を行っている。

学校内には、学年別室や図書室、保健室、校長室など多様な児童の特性や抱えている背景、その時々児童の状況に応じて、児童が安心して過ごすことのできる場所を整備している。なお、不登校児童の在籍比率は、毎年増加傾向にある。一人ひとりの状況に応じた支援を行ったうえで改善していくことが望まれる。そのため、学校全体で、児童理解を柱とした、児童に寄り添った丁寧な対応を続けていくことが極めて重要である。

昨年度につづき、今年度のアンケート結果からも、大半の児童が、大宮西小学校に通うことを楽しみにし、友達や教員を信頼し、優しさ思いやりのある学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も丁寧な対応を心掛け、安全で安心な学校づくりをすすめていきたい。

2【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市学力経年調査 同一母集団 学年別経年比較

令和6年度 大阪市学力経年調査の結果は、3年生の理科、6年生の英語以外、すべての学年、教科において正答率が大阪市平均・標準化得点の100を超えることはなかった。学力向上委員会を中心として、ふりかえりプリントの活用等を通して、学年や個々の課題を明確にして、習熟度別少人数指導の工夫や個別学習に取り組んできたが成果として表れているところと表れていない結果が見られる。

新学習指導要領の「主体的対話的で深い学びのある学習（学び合い）」は、従来の「教師が教える」中心の授業から「子どもが学ぶ」ことに中心を移すことを示唆している。これは欧米諸国においては、30年以上前から取り組まれている、世界の教育界におけるグローバルスタンダードであるし、何より学力向上の一番の近道でもある。学びは本来は一人でするものであるが、現状は一人で学べない子どもは少なくない。そこで、授業中の子どもの「わからない」を大切に、また言語活動、コミュニケーションを豊かにし、子ども同士のつながりを活かしながら、子どもの学ぼうとする心に火をつけるような指導で学び合いの授業を構築し、学力を向上させていきたい。

全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果については、男子は握力、上体起こし、50m走、立ち幅跳び、ソフトボール投の5種目が、全国平均を上回った。一方女子は握力、上体起こし、20mシャトルラン、50m走、ソフトボール投げの5種目が、全国平均を上回った。運動が楽しいと感じている児童は多い。体育の授業や休み時間には、楽しく運動することができている。俊敏性や持久力を高めるために、なわとび週間やかけあし週間を継続して取り組むとともに、体育の授業の進め方についても改善を図っていく必要がある。

なお、今年度は、学習指導要領が定める「主体的対話的で深い学びのある授業づくり」を推進する学校として、東京大学名誉教授佐藤学の支援を受けながら「学び合い」をベースとした学校づくりを進めている。このため、毎月の授業ビデオを使った研究協議会、そして全市公開授業研究会を年3回予定している。

【取り組み】

文科省学習指導要領「主体的対話的で深い学び」の実現に向けて

- ① 年間3回の「全市公開授業」の実施
- ② 月1～2回行う「ビデオ研修」
- ③ 月2～3枚発行する「学び合い通信」
- ④ 夏休みに「全市公開研修会」を5回実施

3【学びを支える教育環境の充実】

本校では、教職員に一人1台、児童一人1台端末が配備され、各教室に大型モニターやアクセスポイントなどの設備や各種ネットワークも整備されている。授業では、デジタル教科書やプレゼンテーション資料などを大型モニターに表示し、児童にとってわかりやすく、教員にとっても効率的に進めることができている。また、様々な理由で登校できない児童へ、オンライン授業やGoogle Classroomを通して、授業に参加したりプリントなどの資料を配布したり、個に応じた支援を行っている。授業以外では、オ

ンライン中継による全校集会や各種アンケート調査などに ICT 機器を活用している。

一方、本校では長時間勤務となっている教員が一部に見られ、心身の健康面が不安である。疲労蓄積チェックなどを行い、学校産業医の助言をいただきながら運営している。児童のために献身的に寄り添って対応する姿や時には厳しく愛情をもって対応する姿、丁寧に保護者との関係づくりをする姿、授業の準備や研究に熱心に取り組む姿などをたくさん見ており、教育者としてのあるべき姿に大宮西小学校が支えられているのも紛れもなく事実である。

引き続き、職場サポートを高めるとともに、「働き方改革」の薄皮を削るように、少しずつでも進めていき、業務量や勤務時間についての軽減について改善していくことで、教職員一人ひとりが安心して、やりがいをもって働くことができる職場環境の構築に努めていきたい。

【取り組み】

個別最適化の学習、働き方改革の推進に向けて

- ① 校時の変更 3時10分 6限終了
- ② 完全2足制 → 清掃の簡略化
- ③ 主体的清掃の実施
- ④ フレキシブル勤務体制の推進

中期目標

1 【安全・安心な教育の推進】

- ・令和7年度小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- ・令和7年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を1%以下とする。
- ・令和7年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を60%以上にする。

2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・令和7年度小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合をどの学年も35%以上、平均40%以上にする。
- ・令和7年度小学校学力経年調査における国語および算数の標準化得点を、100以上とする。
- ・令和7年度小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合をどの学年も80%以上、平均85%以上にする。
- ・令和7年度小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

3 【学びを支える教育環境の充実】

- ・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71%以上にする。
- ・令和7年度小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年50%以上、4年70%以上、5年90%以上、6年100%とする。
- ・「ゆとりの日」（17時30分閉庁）を週に1回設定・実施し、学校だより等で発信するとともに順守する。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

1 【安全・安心な教育の推進】

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を **88%以上**にする。(令和6年度86.6%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(令和6年度2.1%)
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童(**5人**)の改善の割合を50%以上とする。
- ・年度末の児童アンケート「学級や学校のきまりを守っていますか」の項目について、肯定回答の割合を85%以上にする。(令和6年度84.6%)
- ・年度末の児童アンケート「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目について、肯定回答の割合を83%以上とする。(令和6年度80.7%)
- ・年度末の児童アンケート「学校へ行くのが楽しい」の項目についての肯定回答の割合と、保護者向けの対応項目でどちらも93%以上とする。(令和6年度91.8%)

2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を **どの学年も40%以上**にする。(令和6年度30.8%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.3ポイント向上させる。
- ・小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **87%以上**にする。(令和6年度85.9%)
- ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を **どの学年も80%以上**とする。(令和6年度79.3%)
- ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を **75%以上**にする。(令和6年度73.1%)
- ・小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一の母集団で比較し、いずれの学年も前年度(令和6年度**4年19.5%、5年21.1%、6年7.7%**)より1ポイント減少させる。
- ・小学校学力経年調査における「学校の授業などで、自分の考えを文章に書くことは難しいと思いますか」に対して、否定的回答をする児童の割合を52%以上にする。(令和6年度50.5%)

3 【学びを支える教育環境の充実】

- ・**運動会当日など ICT 活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71%以上にする。**
- ・小学校学力経年調査における「コンピュータを使って写真や図を用いたスライドを作ることができますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を3年**50%**以上、4年**70%**以上、5年**90%**以上、6年95%とする。(令和6年度平均93.1%)
- ・「ゆとりの日」（17時30分開庁）を週に1回設定・実施し、学校だより等で発信するとともに順守する。

3 本年度の自己評価結果の総括

1 【安全・安心な教育の推進】

2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

3 【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立大宮西小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組まず目標も達成できなかった

【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】

基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	②	本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を50%以上にする。	生活指導部	B
施策	1-1-2	「いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職（校長・教頭等）に報告している」とする教員の割合を100%にする。	生活指導部	B
	1-1-3	「いじめを受けた児童生徒が当該行為をいじめではないと否定することをもって「いじめはない」と判断するのではなく、当該児童生徒の表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認し、いじめに該当するか否かを判断している」とする教員の割合を100%にする。	生活指導部	B
	1-2-6	年度末の校内調査において、不登校児童の改善の割合を向上させる。	教務部	B
	1-3-8	小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	生活指導部	B
学校オリジナル目標				達成状況
	1-S-1	問題行動への対応：学校安心ルールの配布と指導を年間1回以上行う。関係諸機関との連携を密接に行う。	生活指導部	B
	1-S-2	児童虐待等への対応：①こどもサポートネットの実施 ②スクールソーシャルワーカーと連携していく。	生活指導部	A
	1-S-3	防災・減災教育の推進：①年間3回以上の避難訓練を実施する。（火災、津波、地震）②学校だよりやはぐみネット機関紙、学校ホームページ等で学校での安全教育の取り組みの様子を年間5回以上知らせる。③地域との連携を含めて年間1回以上、防災訓練を実施する。	生活指導部	B
	1-S-4	安全教育の推進：①きまりを守ろう週間を学期に1回行い、児童の意識付けをさせる。②安全マップを作成する	生活指導部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

目標② 各学級で動画を活用し、スマホの危険性や適切な使い方について指導している。

1-1-2 いじめの可能性に気づいた時点で、直ちに管理職に報告し、対応を考えている。

1-1-3 いじめについての校内研修を行い、児童の様子をきめ細かく観察して判断するよう共通理解ができている。

1-2-6 保護者と連絡を密にとり児童の状況を把握するとともに、月に1回の生活指導連絡会で不登校状況を共通理解している。

- 1-3-8 学校安心ルールや月目標を活用し、きまりが守れるように指導している。
- 1-S-1 各教室に学校安心ルールを掲示し説明したり、トラブル時の指導に活用したりして、問題に対応することができている。
- 1-S-2 こどもサポートネットの実施 やスクールソーシャルワーカーと連携を定期的なきめ細かく行うことで、虐待等への対応ができている。
- 1-S-3 年間を通して計画的に避難訓練を実施することができている。学校での安全教育の取り組みの様子は知らせているが、地域と連携しての防災訓練はできていない。
- 1-S-4 生活を明るくする週間の活動に組み込んで、きまり守る意識付けをしている。安全マップを作成し、学校ホームページに掲載している。

基本的な方向 2 豊かな心の育成

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	①	小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	教務部	B
	②	小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。	生活指導部	B
施策	2-2-11	小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	生活指導部	B
学校オリジナル目標				達成状況
	2-S-1	道徳教育の推進：様々な事業などにより、「いのちと性」の教育事業、「子どもの情報モラル」の教育事業を実施し、自分や他者の価値を尊重し、高い自尊感情を育成する。	(道徳教育推進委員会) 研究部	
	2-S-2	キャリア教育の充実：職業講話などを実施する。	教務部	B
	2-S-3	人権を尊重する教育の推進：人権教育の計画的・系統的な推進。「学校園における人権教育・啓発推進計画」の作成と実践をおこなう。	(人権教育)研究部	B
	2-S-4	インクルーシブ教育の推進：共に学び、共に育ち、共に生きる教育の推進①自立し、主体的に社会参加できる力を養う ②個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	(特別支援教育)研究部	B
	2-S-5	多文化共生教育の推進：①日本の文化や伝統についての体験的な学習の推進 ②日本語指導の保障、母語・母文化の保障	(外国人教育)研究部	B
	2-S-6	仲間づくり・集団育成を推進する。：①ソーシャルスキルトレーニングなどを通じて集団を育成していく②縦割り活動や異学年との交流を通して、互いに助け合う集団を育むことと低学年の児童は高学年を見習い、目標を持って高学年になる集団を育成する。	生活指導部	B
	2-S-7	校内美化と健康管理の推進 委員会活動を中心に、健康管理を行い、日々の清掃活動を通して学習環境の整備を行う。	庶務部	B
	2-S-8	今年度の学年・学級経営目標	各学年	B
1年	一人一人の違いを認め合える集団の育成			B
2年	「誰とでも仲良くし、思いやりのある子、話をしっかりと聞く子、最後までやりとげる子」の育成			B
3年	思いやり～自分から、自分たちで、伝え合おう～			B
4年	共に考え、学び、支え合える集団へ			A
5年	高学年として、学校を支える腰のような存在になる			B
6年	最高学年として、学校の頭のような存在になる			B
糊技媛	自己肯定感を高め、自立できる力を育む			B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

目標① 社会見学や自主的清掃活動、たてわり班活動等を通して責任感や人の役に立つ喜びを感じられるよう、計画的に取り組むことができている。

目標② 各学級、終わりの会や学級活動を活用していいところ見つけをしたり、子どものがんばりを積極的にほめたりすることで自己肯定感を高めている。

2-2-11 キャリア教育の実施や普段の指導から、将来の夢や目標が持てるようにしている。

2-S-2 地域の方との交流や、社会見学等計画的に取り組むことができている。

2-S-6 縦割り活動や異学年交流を通して、互いに助け合う集団を育むことができている。

2-S-7 健康委員会の健康生活週間を実施することができている。清掃活動は、11月から主体的清掃活動を開始した。

2-S-8 全学年・学級が計画的に指導できている。

【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】

基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
施策	4-2 -14	小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童（70%未満）の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。	研究部	未
	4-2 -15	小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童（70%未満）の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より5ポイント減少させる。	研究部	未
学校オリジナル目標				
	4-S-1	■「授業中にわからないときは、先生やともだちに『教えて』と訊くことはできていますか？」の項目の肯定的回答を75%以上にする。	研究部	(B)
	4-S-2	■教科書レベルを超えた課題（ジャンプの課題）を月に2回以上行う	研究部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

(4-S-1) アンケートをとっていないため、教員の運営シート参照

・「教えて」と言える児童が増えたと回答があった半面、わからないことがわからない児童に困り感がある回答もみられた。

(4-S-2)

- ・単元開始と終わりや、ある程度学習が進んだところでジャンプ課題に取り組んでいる。
- ・教科によって行うのが難しい。
- ・基礎の定着や教科書の学習内容で手一杯。
- ・共有フォルダにためていくと困り感が減る。

基本的な方向 5 健やかな体の育成

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標		全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を男女ともに前年度より5ポイント向上させる。	健康教育部	B
施策	5-1 -17	全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を50%以下にする。	健康教育部	B
	5-2 -18	小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	健康教育部	B
	5-2 -18	小学校学力経年調査における「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」についての肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	健康教育部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

○運動や外遊びを好んでする児童とそうでない児童との二極化が見受けられる。

○保健指導で朝食の大切さを指導している。2学期の保健週間のチェックシートでは朝ごはん

んを食べている児童は5日食べている児童は87%であった。4日は5%である。また、寝る時刻が遅くなり（ゲーム、パソコン、スマホなど）授業中に眠たくなってしまう児童が見られる。委員会活動や保健週間等を活用し基本的生活習慣の重要性を継続して啓発していく必要がある。

【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】

基本的な方向 6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	⑨	運動会当日など ICT 活用が適さない日を除く授業日において、8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の71%以上にする。	(ICT) 教務部	A
学校オリジナル目標				達成状況
	6-S-1	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査 ・大阪市小学校学力経年調査 ・小学生すくすくウォッチの結果データの活用及び分析 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果データの活用及び分析 ・「心の天気」「いじめアンケート」等のデータの活用及び分析を行う 	研究部	未

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

目標⑨ 心の天気の入力や、調べ学習や新聞づくり、学習成果の発表等、様々な教科で利用しているので、継続して取り組む。1学期は71%を満たしていなかったが、2学期は87%に達している。

基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

		大阪市教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	⑩	「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を75%以上にする。	管理職	A
学校オリジナル目標				達成状況
	7-S-1	①校務支援システムのグループウェア機能活用等を通じたICTの活用による学校経営の効率化を進める ②夏季休業中等の学校閉庁日の設定、始業式、終業式の弾力的運用の活用	管理職	A
	7-S-2	多くの教職員が、質の高い研修に参加していく	管理職	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

目標⑩ 勤務時間の調整や、会議等の精選・効率化により、基準1を満たす教職員の割合が現時点では91.3%になっている。

- 7-S-1 ①skip の会議室や共有フォルダを有効利用し、効率化を図り、案件の事前提示や内容の全体共有など会議にかかる時間を削減した。
- ②夏季休業中には4日、冬季休業日には3日、学校閉庁日を設定するとともに、各学期の始めと終わりの週は弾力的に時数を削減している。

基本的な方向 8 生涯学習の支援

		大阪府教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
施策	8-2 -20	小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、ふだん（月～日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、まん画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と回答する児童の割合を30%以下にする。	教務部	B
	8-2 -21	小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	教務部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

読書タイム、図書室の利用、団体図書の貸し出しや図書委員会の様々な取組等読書に親しむ機会を提供することができている。

基本的な方向 9 家庭・地域等と連携・協働した教育の推進

		大阪府教育振興基本計画に掲げる目標項目	担当	達成状況
目標	12	■『はぐくみネット』・『学校元気アップ地域本部』や学校協議会などの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営など、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」に対して、肯定的に回答する小中学生の割合を50%以上にする。	教務部	B

取り組みの進捗状況や結果と分析 中間評価

敬老の日集会や公園清掃等計画的に実施している。